
疑惑

認識

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

疑惑

【Nコード】

N3322Z

【作者名】

認識

【あらすじ】

いつも通りの帰り道。

ふとした気まぐれで寄り道をした俺。

そこで待ち受けていたのはナイフで刺されて死んでいたおっさんだった。

それを前に俺はどうする！？

出会い（前書き）

短編小説です。

本当に短いですが読んで頂けると嬉しいです。

出会い

これはどこかで起こった物語

僕はこんな繰り返すだけの毎日は嫌だ。

なんて事をいきなり言ってみたところで、

「何だこいつは？ 中学生か」とか、「知らねえよ」なんて声が聞こえてくる気がする。

自分でもそう思う。

でも、思ったからと言ってそれに気付いているとは限らない。

僕がこれまでの18年で起こった出来事で一番大きな事件は両親の喧嘩により、両親が離婚。

そして母親一人に育てられた。

これだつて僕の幼少のころの出来事で自分とは関係ないところで起こった。

結局僕は主人公になれない。

人はいつだつて大事な物には後から気付く。

僕はそれを理解するのに18年かかった。

進学も決まり、後はただ目標も無く通っていた高校の帰り道。

放課後に部活動も終わり、友人と遊ぶ事も無くまっすぐと家に向かう。

やる事も無く、膨大な暇な時間を無駄にするために。

けど、今日ばかりは違った。時間の無駄遣いをさせてもらつた事は出来なかった。

家に帰ってもやる事はないんだから、と橋の下で暇つぶしをしよう

と考えた。

たまにはいつもと違う事をしてみたくなったのだ。
なんで今日に限ってそんな事を考えてしまったのだろうか？

草が生い茂った道をかき分けながら進んでいき、橋の真下、コンクリートで塗装された部分を目指していく。

しかしそこには先客が居た。そのスペースで横になっている人物。

「おい、誰だよ。」

そう呟いて、考え始める。

どうせ、ホームレスのおっさんだろう。じゃまだな。ちつとばかり驚かせてやるか。

そんな事を思いながらどんと近づいて行く。

そして自分とは反対の向きに寝ている人物に向け、

「おい、おっさん。ちつとの間ここを貸してくれねえかなあ！」
と、怒鳴った。

自分で思う怖い顔を思いつきりして（上手く出来ているか分からないが）睨みつける。

だがそんな俺の努力も虚しく無反応なおっさん。

なんだよ。無反応かよ、しらけるな。

だからと言ってこのまま引き下がるわけには行かねえし。

「聞こえてんだろっが、おっさんよお！」

今度は体をゆすりながら話しかける。それでも起きないのでどんとんとゆする力を大きくしていく。

その反動でごろり、と体が俺の方を向く。

「な、なに？」

その胸あたりにナイフが刺さっていた。

こっ、見事にズブリと直立していた。垂直にね。

これはまさか俗に言う、

「マジかよ、まさか俺が第一発見者？」

どうするよ！どうする俺！

そっだ、警察に連絡するか？それが当然だろう。

俺はなんとか気持ちを落ち着かせて制服のポケットから携帯電話を取り出した。

番号を打鍵して警察に連絡をする。

「はい、なんでしょうか」

「もしもし大変です！し、死体が、人が死んでいます」

「えっ！？本当ですか？」

警官の人と話しながら死んでしまっている人の特徴を探すためにおっさんの顔をまじまじと見る。

「分かりました。今すぐ向かうので現在地を教えてください」

「あ、すいませ〜ん。なんか死んだふりごっこしていた子供みたいで、すっかり騙されちゃいました。駄目だぞ、メツ、おい、泣くなつて。子供泣いちゃったので……」

俺の急な態度の変化に疑問を抱かなかつた訳ではないだろう。

しかしそれでも、「次からはちゃんと確認してくださいね」と言つて電話を切ってくれた。

俺が嘘を付いた理由。それは、この顔……どこかで見たような気がするのだが。

クラスメイトか？

それとも、どこかですれ違っただけか？

分からない。ただいつも見ている様な　そんな気がする。

どこだ？

俺とこいつ　どこで会っている？

出会い（後書き）

もしかしたら続くかもしれない。
その時はまた読んでくださいね^^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3322z/>

疑惑

2011年12月11日14時50分発行